

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名：総社市

1. 事業の概要

事業名称	総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業
事業の目的	地域に暮らす外国人住民が、日本人住民との交流を通して、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら、地域社会で暮らすために必要な生活情報・行政情報や、日本の文化・習慣に関する知識を得ることのできる場を設けるとともに、言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活を、同じ地域に暮らす隣人としてサポートする人材を育成することにより外国人支援体制の基盤を作り、外国人住民が自立し、地域社会の一員として積極的に社会参加できるよう地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	H20年秋の経済危機により、本市には大量の外国人失業者で溢れたが、その多くが日本語での日常会話すらままならないブラジル人・ペルー人だった。そのような危機的事態を迎え、外国人支援対策の一つとしてH22年度から文化庁委託事業「生活者としての外国人」のための日本語教育事業において日本語教室を開設し、地域日本語教育を担う人材の育成や、地域における外国人支援・多文化共生を推進するための体制を少しずつではあるが整えつつある。とは言え、ニューカマーの来日以前はほとんど外国人が居住していなかった本市において、外国人支援体制を構築するにはまだまだ時間が必要であるだけでなく、本市規模の自治体では、日本語を指導できる人材が乏しく、日本語の学習機会が極めて限定されており、本市が開設する日本語教室以外に日本語を学ぶ場所がほとんどないという問題を未だに抱えている。地域日本語教室の開設を通じ、小規模ながら、ある一定数の地域住民の間に、外国人への日本語教育の必要性や住民同士の交流を通じた相互理解の重要性が認識され始めたところではあるが、外国人住民と日本人住民との交流の機会も少なく、外国人支援の歴史が浅い上、地域社会における多文化共生意識も低く、外国人の存在や彼らを取り巻く様々な問題点が地域社会の住民に共有されているとは言い難い状況である。さらに、ここ数年の間に南米系住民は漸減、一方、アジアからの外国人が増え始め、とりわけこの約4年の間に、ベトナムからの技能実習生が10倍以上に急増するなど、外国人住民の多国籍化・多言語化が顕著になり、日本語教育を含めた外国人支援に対するニーズが一層多様化してきており、総社市の外国人事情は大きな転換点を迎えている。今後の人口減少と労働力不足に鑑みれば、この傾向はしばらく続くと考えられ、とりわけ本市のような地方小都市において、地域産業を支える外国人就労者の存在は大きく、地域社会の安定的な労働力確保と地域活性化を考える時、地域社会で外国人を受け入れる施策としての日本語教育事業の意義は大きく、行政がリーダーシップを取り、地域の多文化共生施策を推進するとともに、地域社会全体が外国人支援に関わる社会システムの構築を行うことは喫緊的課題とされている。
本事業の対象とする空白地域の状況	-
事業内容の概要	日本語教育の実施として【取組1】「地域でつながる日本語教室」を、取組の成果の発信及び住民の日本語教育への理解の促進として【取組2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修事業」を、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制整備の推進として【取組4】「地域ではぐくむ子育て応援事業」を行った。これらの取り組みを通して、より一層本市の多文化共生施策を推進するとともに、継続的な外国人支援体制を地域に根付かせるための基盤作りとシステム構築を行った。 なお、当初予定していた【取組3】「地域コミュニティ連携防災訓練事業」については、平成30年7月豪雨災害により、年度内の防災訓練は未実施である。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年3月(11か月間)

2. 事業の実施体制

**(1) 運営委員会
【運営委員】**

1	小原 純	総社市 市民生活部 人権・まちづくり課 課長
2	中東 靖恵	岡山大学大学院社会文化科学研究科 准教授
3	平松 秀昭	総社市コミュニティ地域づくり協議会 会長
4	樂木 章子	岡山県立大学保健福祉学部 准教授
5	尾崎 喜光	ノートルダム清心女子大学文学部 教授



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年6月4日(月) 15:00～17:00	2時間	総社市役所 本庁舎2階会議室	小原 純 中東 靖恵 平松 秀昭 樂木 章子 尾崎 喜光	1. 平成30年度総社市日本語教育事業の目的・事業概要の説明 2. 各取り組み(日本語教室、サポーター育成研修、防災訓練事業、子育て応援事業)についての概要、年間スケジュールの説明
2	平成30年9月25日(火) 15:00～17:00	2時間	総社市役所 本庁舎3階職員休憩室	小原 純 中東 靖恵 平松 秀昭 樂木 章子 尾崎 喜光	1. 平成30年度総社市日本語教育事業各取り組み(日本語教室、サポーター育成研修、防災訓練事業、子育て応援事業)についての現状、進行状況の報告 2. 各取り組みについて、今後(被災後)の事業スケジュールの説明
3	平成31年3月5日(火) 15:00～17:00	2時間	総社市役所 本庁舎3階職員休憩室	小原 純 中東 靖恵 平松 秀昭 樂木 章子 尾崎 喜光	1. 平成30年度総社市日本語教育事業各取り組み(日本語教室、サポーター育成研修、防災訓練事業、子育て応援事業)についての最終報告 2. 今年度事業の反省 3. 次年度事業への課題等の検討

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	本事業すべての取り組みにおいては、コーディネーターである岡山大学大学院准教授が、事業主体である総社市との連携において総合統括・コーディネートを行うとともに、総社市コミュニティ地域づくり協議会と総社市インターナショナルコミュニティとの連携による国際交流イベントの開催、総社市内保育・子育てでNPO法人との連携による子育て応援事業の実施、岡山県内・近隣地域(広島県、香川県、兵庫県、鳥取県、島根県)の日本語教室との連携による講師招聘や教室視察・交流・情報交換活動、岡山大学、ノートルダム清心女子大学など日本語教員養成課程を持つ県内の大学との連携による若手人材育成や日本語教育専門家との情報交換等、地域相互連携支援体制を整えている。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	「コーディネーター」は、運営委員も兼務し、本事業すべての取り組みの総合統括を行った。本市の日本語教室の現状及び問題点の把握をし、本市の実状に応じた日本語教育事業の企画・運営を行うとともに、専門知識、人脈、経験を活かし、専門家、指導者、支援者、行政が協力できる関係づくりを整備した。「指導者」はすべて、外国人受講者の日本語能力がゼロレベルであっても対応可能な日本語教授を行うことができる有資格者の日本語教師である。「地域でつながる日本語教室」では日本語指導を行うとともに、外国人住民の日本語学習をサポートする人材の育成を行う「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」では「講師」となり、日本語教育の専門知識を教授した。「事業担当者」は、本事業を実施するうえで必要となる各会場の提供、また講習や体験学習を通して日本の文化・習慣に関する知識の習得及び医療・福祉・教育・防災などの行政情報の提供を行うために連携・協力が必要となる総社市各担当部署及び各種団体等多様な機関との調整、事業の広報、参加者への連絡、会計等事業遂行に必要な事務処理を行った。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞												
取組の名称	地域でつながる日本語教室											
取組の目標	地域に暮らす外国人住民が日常生活に必要な日本語の習得やコミュニケーション能力の向上を図りながら、日本人住民との交流を通じて実践的な日本語の運用能力を身につけるとともに、日本の文化・習慣および医療・防災などの行政情報を得、地域住民としての自立と地域社会への積極的参加を促す。											
取組の内容	地域に暮らす日本人住民との交流を通じて、実践的な日本語の運用能力を身につけることのできる日本語教室を開設し、講座や体験学習を通して日本の文化・習慣に関する知識と、医療・福祉・教育・防災などの行政情報を提供することにより、安心して社会生活が送れるよう、また地域住民としての自立と積極的参加を促した。											
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	-										
取組による体制整備	ボランティアでは対応が難しい、日本語能力がゼロレベルの受講者にも対応可能な、日本語教師の有資格者による日本語教授を行い、地域に暮らす外国人住民が日本語能力をしっかりと身につけられるような日本語学習の機会を提供するとともに、各種団体等多様な機関と連携・協力し、講座や体験学習を通して日本の文化・習慣に関する知識の習得と、医療・福祉・教育・防災などに関する行政情報の提供を行う。また、外国人住民の日本語学習をサポートする「日本語学習サポーター」として、地域に暮らす日本人住民に日本語教室に参加してもらい、日本語教室を「地域住民同士がにつながる場」として機能させた。											
取組による日本語能力の向上	文化審議会国語分科会による「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案に基づき、地域の特性を生かし策定する「H30年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」(H29年度版を改訂)に従い、日本語学習シラバスを作成し、日常生活に必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図るための日本語教授を行うとともに、地域に暮らす日本人住民との交流を通じて、実践的な日本語の運用能力を身につけた。											
参加対象者	地域に居住する外国人住民(母語、国籍は問わない)					参加者数 (内 外国人数)		108人(108人)				
広報及び募集方法	総社市ホームページ、外国人住民向け広報紙、総社国際ナショナルコミュニティホームページ、Facebook、募集チラシ(「やさしい日本語」をベースに、ポルトガル語、英語、中国語訳を付記)、市関連施設・商業施設ポスター掲示											
開催時間数	総時間46時間(空白地域-時間) ※当初、60時間(全30回)を予定していたが、豪雨災害により7/8～9/30を休講とした。					内訳 2 時間 × 23 回						
主な連携・協働先	書道教室、保育NPO法人等											
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本		
※該当する場合のみ	17		7	67	2	1	6	3	1	2		
ミャンマー(1人)、エジプト(1人)												
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名				
1	平成30年6月17日(日) 9:30～11:30	2	総社市保健センター	33	自己紹介・日常のあいさつをする	自己紹介をするために必要なあいさつ表現や語彙について学び、参加者間で実践練習をした。 【イベント】「自己紹介」ゲーム	岡田 恵子 小川 宏子	譚 俊偉 赤澤 春香				
2	平成30年6月24日(日) 9:30～11:30	2	総社市保健センター	35	メニューを読んで理解する	レストランや飲食店のメニューを読むために必要な語彙と注文をする際に必要な表現を学んだ。 【イベント】「あ」から始まる言葉ゲーム	井上 敦子 高田 聡	-				
3	平成30年7月1日(日) 9:30～11:30	2	総社市保健センター	33	地震・台風について理解する	地震や台風など災害時の対策や避難方法に関する表現を学んだ。 【イベント】七夕の短冊書き	大隅 元代 小川 宏子	-				
平成30年7月8日(日)～9月30日(日) 9:30～11:30 豪雨災害のため休講												
4	平成30年10月7日(日) 9:30～11:30	2	総社市保健センター	35	ゴミの出し方・公共マナーを理解する	ごみの種類、分別・回収方法など、ごみ出しに必要な語彙・表現を、実物を使用しながら学んだ。 【イベント】被災アンケート	大隅 元代 井上 敦子	譚 俊偉 赤澤 春香				
5	平成30年10月14日(日) 9:30～11:30	2	総社市保健センター	33	道を尋ねる・教える	道を尋ねたり、道を教えたりするために、場所や道順を教える語彙や表現を学んだ。 【イベント】「い」から始まる言葉ゲーム	船曳 清美 高田 聡	-				
6	平成30年10月21日(日) 9:30～11:30	2	総社市保健センター	31	病院探し・初診受付	病院を探して初診受付をする際に、情報を発信するために必要な語彙・表現を学び練習した。 【イベント】「お」から始まる言葉ゲーム	井上 敦子 岡田 恵子	-				
7	平成30年10月28日(日) 9:30～11:30	2	総社市保健センター	42	書道を習う	日本文化の一つである書道について概略を学び、書道講師により実践的な指導を受けた。	小川 宏子 岡田 恵子 松本 真明	-				
8	平成30年11月4日(日) 9:30～11:30	2	総社市保健センター	30	地震・台風について理解する(2)	注意報や警報など、災害時に必要な語彙や表現を学んだ。 【イベント】「白いもの」言葉ゲーム	大隅 元代 高田 聡	-				
9	平成30年11月11日(日) 9:30～11:30	2	総社市保健センター	20	交通ルール・交通マナー	日本の交通ルール・交通マナーに関する語彙・表現を学んだ。 【イベント】「か」から始まる言葉ゲーム	船曳 清美 小川 宏子	-				
10	平成30年11月18日(日) 9:30～11:30	2	総社市役所西庁舎	26	食文化を理解する	日本の料理、有名な食べ物について語彙・表現を学んだ。 【イベント】「き」から始まる言葉ゲーム	小川 宏子 岡田 恵子	-				
11	平成30年11月24日(土) 11:00～13:00	2	カミガツジプラザ	-	国際フェスタに参加する	カミガツジプラザで開催された「そうじゃインターナショナルフェスタ」に参加した。	-	-				

12	平成30年12月2日(日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	22	医者の診察を受ける・ 病気への対処法・予防 法	病院で診察を受ける際に必要な語彙・表現 を学び、シミュレーションを行った。 【イベント】しりとり	井上 敦子 大隅 元代	-
13	平成30年12月9日(日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	26	公共交通機関を利用 する	公共交通機関の種類や利用方法に必要な 表現を学んだ。 【イベント】「さ」から始まる言葉ゲーム	高田 聡 小川 宏子	-
14	平成30年12月16日(日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	25	買い物の仕方を学ぶ	日常生活の活動として頻度の高い「買い 物」を取り上げ、買い物行為に必要な語彙・ 表現を学んだ。 【イベント】「し」から始まる言葉ゲーム	小川 宏子 高田 聡	-
15	平成30年12月23日(日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	23	年賀状を書く	年末年始に使うきまり文句や表現を学び、 日本の年末行事として年賀状を書く体験を した。 【イベント】年末茶話会	大隅 元代 船曳 清美	-
16	平成31年1月6日(日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	14	慶事の文化風習・マ ナー	日本の正月や縁起物など慶事に関する習 慣(祝儀、食べ物など)や決まり文句につい て学んだ。 【イベント】獅子舞	小川 宏子 高田 聡	-
17	平成31年1月13日(日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	29	日本の1年(年中行事)	日本の年中行事・イベントについて知り、文 化を学んだ。 【イベント】「と」から始まる言葉ゲーム	井上 敦子 船曳 清美	-
18	平成31年1月20日(日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	15	交通事故・犯罪事件 で、110番・119番に電 話する	交通事故・犯罪事件で110番・119番に電話 通報するために必要な表現を学び、実践練 習をした。 【イベント】すごろく	岡田 恵子 大隅 元代	-
19	平成31年1月27日(日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	20	職場でのあいさつ・こと ばづかいを理解する	職場での丁寧な言葉づかいかいやあいさつ表現 を学んだ。 【イベント】3文字言葉ゲーム	高田 聡 船曳 清美	-
20	平成31年2月3日(日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	26	日本・岡山の観光	国内・岡山県内の観光地や四季のイベント などについて知り、それらの情報を得るため の表現を学んだ。 【イベント】節分の歌・豆まき	岡田 恵子 井上 敦子	-
21	平成31年2月10日(日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	27	サイズ・色・素材を尋 ねて購入する	服やズボンなどのサイズ・色・素材を尋ねて 購入するのに必要な語彙・表現を学んだ。 【イベント】「は」から始まる言葉ゲーム	大隅 元代 岡田 恵子	-
22	平成31年2月17日(日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	25	薬局を利用する。薬の 説明を理解する	薬の種類、薬袋や処方箋に書かれてある語 彙・表現を学び、必要な薬を買う練習をし た。 【イベント】最終アンケート	小川 宏子 船曳 清美	-
23	平成31年3月3日(日) 9:30~11:30	2	総社市保健センター	26	引越しのあいさつをす る	公共マナーと、引っ越しの際に使う決まり文 句や引っ越しのあいさつ時に贈る物につい て学んだ。 【イベント】合同修了式	井上 敦子 高田 聡	-

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第7回 平成30年10月28日】

書道を習う

講師:徳真書道教室 松本 真明

書道講師を招き、書道パフォーマンスの実演を見学、マブリング体験で色紙への色づけ、思い思いの漢字を書くことで書道文化を学んだ。



○取組事例②

【第16回 平成31年1月6日】

慶事の文化風習・マナー

日本の正月や縁起物についての語彙や表現を学んだ。また、獅子舞などの登場により、日本文化への理解を深めた。



(2) 目標の達成状況・成果

・昨年度に引き続き、地域の特性を生かした日本語教育プログラムとして策定した「平成30年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム」(30単位)に従い、学習シラバス(2時間×30回=60時間)を作成したが、今年度は豪雨災害の影響により休講があったため、シラバスを変更(2時間×23時間=46時間)して授業を行った。毎回の授業終了時に受講者が記入する「活動記録」およびミーティングでのコーディネーター・指導者・日本語学習サポーター・市職員との話し合い、日本語教室受講者に対して行った最終アンケート調査の結果により、以下に挙げるような一定の成果を上げることができたことが確認された。

- ①日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上:日本語教室受講者に対するアンケート調査の結果、日本語の4技能(聞く・話す・読む・書く)における能力向上、きちんとした日本語が使えるようになった、日本の文化や習慣を知ることができたと感じる者が多かった。また、楽しく日本語を勉強できた、たくさんの友達ができ、日本人の友達ができたと回答している受講者も多く、日本語教室が「日本語を使って住民同士が交流する場」として機能しており、教室参加が受講者の日本語コミュニケーション能力向上を促進する役割を果たしていることを確認することができた。
- ②地域社会で生活するために必要な行政・生活情報の提供:総社市日本語教室における外国人向け体験学習・講座の実施は総社市各担当部署との連携により、また、その他日本語教室における生活情報・行政情報の提供は、岡山県内のNPO、各種機関・団体との連携により行う予定としていたが、災害により防災訓練が中止となり参加できないなど、各関係機関等との連携は従来よりも縮小せざるを得なかったが、徳真書道教室講師による日本語教室での書道講習(平成30年10月28日)の実施、総社市コミュニティ地域づくり協議会との連携による「そうじやインターナショナルフェスタ」への参加(平成30年11月24日)により一部実施することができた。
- ③地域住民同士がつながる場の提供:今年度も引き続き、「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」における研修の一環として、地域に暮らす日本人住民が、外国人住民の日本語学習を支援する「日本語学習サポーター」として日本語教室に参加することにより、教室内でより細やかなサポートを行えるようにするとともに、「地域住民同士がつながる場」として日本語教室が機能するよう、外国人住民と日本人住民との交流を促す試みを行った。日本語教室受講者の日本語能力のレベル差が大きいことから、教室活動における日本語学習サポーターの役割は大きく、また、地域で顔を合わせる機会が多い地域住民であること、継続して参加するサポーターの存在もあり、受講者との関係性の構築や教室内でのサポートの方法などの面で、この仕組みがより一層うまく機能し、地域住民同士のつながりがより強化されているように感じられた。
- ④地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り:昨年度から市内の各スーパーマーケットにも募集チラシを置くことで、外国人に対する日本語教室の周知に加え、地域の日本人住民に対して外国人住民の認識を含めさらなる周知を図った。地域社会に対して外国人支援活動に対する理解を求めるとともに、日本語教室が地域に暮らす外国人住民と日本人住民をつなぐ場となり、地域住民による外国人支援活動を地域社会に根付かせることができるよう今後も引き続き日本語教室活動の一環として行っていきたい。

(3) 今後の改善点について

- ①日本語教室の授業内容・教授方法:各テーマを担当する日本語指導者を昨年度とできるだけ入れ替え、授業内容にバリエーションを持たせるよう工夫した。また、1回完結型の会話コミュニケーション重視の授業形態は、受講者に対していつ来ても日本語教室に参加できるという安心感を与えることができるものだと再認識できた。
- ②日本語教室の運営・実施体制:
 - ア)複数の日本語指導者によるローテーション体制:今年度においては、6人の有資格者によるローテーション体制によって教室運営を行った。各授業担当者がメールで授業報告(受講者人数、受講者の国籍・日本語レベル等、授業で扱った文型・内容、授業中気になったこと)をすることで、授業内容の確認、引き継ぎ、情報共有を行った。日本語教育の質を確保するため、本市事業においては有資格者で、教歴が長く、かつ、多様な形態での教授経験を持つ日本語教師を指導者と長く配置しているが、指導者の評判が大変良いので、今後も引き続き有資格者による日本語教室運営を行ってきたい。
 - イ)日本語学習サポーターの教室参加:H24年度から、人材の養成・研修の一環として、地域住民が「日本語学習サポーター」として日本語教室に教授者の補助的存在(=サポーター)として参加するという形態をとっているが、7年が経ち、その仕組みが日本語教室内にすっかり定着し、円滑に機能している。日本語学習サポーターによるきめ細やかな補助を行いながら、教室運営をしていくという方法は、地域日本語教育の教室運営の在り方の一つとして有効であることを実感している。
- ③日本語教室の受講者:本市では、できるだけ多くの外国人住民が参加できるよう、小さな子供のいる家庭でも日本語教室に参加できるよう、無料で保育・託児を設けている。安定的な託児体制を整えるため、昨年度より託児を予約制としたが、学習者同士で予約制を説明・理解し合うなど、確実に定着してきている。また、授業内容や授業の方法においてさまざまな工夫を行い、常に授業改善を行っている。その成果もあり、受講者総数が100名を超え、毎回の授業参加者数も安定はしていたが、受講者で参加回数に差があり、1年を通じて受講した人は少なく、教室に継続して来ることが難しいことは相変わらずである。また、今年度は近年急激に増加したベトナム人技能実習生の受講者も大きな割合を占めたが、参加者や参加数の変動が顕著であった。平成31年4月からの入管法改正に伴う受け入れ体制の変動もあるが、今後の外国人事情の動向も踏まえつつ事業の方向性を考えたい。

＜取組2＞											
取組の名称	地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修事業										
取組の目標	地域住民を対象に、外国人住民の日本語学習を生活支援の一環としてサポートする人材の育成を行うとともに、外国人住民の自立や積極的社会参加を促す意義や重要性を働きかけながら、多文化共生社会への意識啓発・意識醸成を行い、継続的な外国人支援体制を地域に根付かせるための基盤作りを行う。										
取組の内容	地域住民を対象に、外国人住民の日本語学習を生活支援の一環としてサポートする「日本語学習サポーター」を育成するため、外国人支援・多文化共生・日本語教育に関する知識を身につけるための「学習研修」と日本語教室に参加して日本語学習をサポートする方法を実践的に学ぶ「実践研修」を行った。また、市職員に対しても、多文化共生意識の啓発・向上と「やさしい日本語」の習得を目的に研修を行った。										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備	岡山大学、公益財団法人ひろしま国際センターの日本語教育の専門家による講義・ワークショップと、事業主体担当部署である総社市人権・まちづくり課国際・交流推進係長による多文化共生推進施策の現状と課題に関する講義により、地域の外国人事情と地域社会が抱える問題を知り、外国人住民の日本語学習を生活支援の一環としてサポートする方法を教示するとともに、【取組1】「地域でつながる日本語教室」に参加し外国人支援を実践することで、多文化共生施策への意識啓発・意識醸成と、日本人住民の外国人に対する日本語教育への理解の促進を図った。										
取組による日本語能力の向上	外国人支援・多文化共生・日本語教育に関する知識を身につけるための「学習研修」に加え、本市に開設する日本語教室に参加し、日本語学習をサポートする方法を実践的に学んでもらう「実践研修」を行い、机上の知識の習得だけでなく実際に外国人住民と交流することで、地域に暮らす外国人が日常生活で必要とする日本語がどのようなものかを学び、また、外国人住民は日本人住民との交流を通じ、実践的な日本語の運用能力を身につけることができた。										
参加対象者	外国人住民の支援に関心のある地域住民(日本人住民、日本語に堪能な外国人住民)	参加者数 (内 外国人数)	12人(- 人)								
広報及び募集方法	総社市ホームページ、広報紙「そうじゃ」、募集チラシ配布、Facebook										
開催時間数	総時間29時間(空白地域-時間)	①「やさしい日本語」研修:2時間×1回=2時間 ②学習研修:2時間×1回=2時間 ③実践研修:2.5時間×10回=25時間									
主な連携・協働先	岡山大学、公益財団法人ひろしま国際センター、NPO法人保育サポートあいあい										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	12
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
①職員・一般市民向け「やさしい日本語」研修											
1	平成30年11月2日(金) 13:30~15:30	2	総社市総合福祉センター	48	「やさしい日本語」研修	市役所での窓口対応や、日本人住民が外国人住民との関わりを持つきっかけ作りとして「やさしい日本語」研修を開催した。	犬飼 康弘	-			
②学習研修(外国人支援に関する基本的な知識習得を行った)											
①	平成30年6月10日(日) 13:30~15:30	2	総社市保健センター	10	総社市における多文化共生施策の概要	総社市における外国人事情・多文化共生施策の概要、平成30年度総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業概要と日本語学習サポーターの役割を説明した。	中東 靖恵 河原 睦弘	-			
②平成30年7月8日(日)13:30~15:30 ③平成30年9月9日(日)13:30~15:30 豪雨災害のため休講											
③実践研修(下記の日本語教室に参加し、日本語学習のサポート方法を学んだ)											
1	平成30年6月17日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市役所西庁舎	11	自己紹介・日常の挨拶をする	自己紹介をするために必要なあいさつ表現や言葉について学び、参加者間で実践練習をした。 【イベント】開講式、「自己紹介」ゲーム	-	-			
2	平成30年6月24日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	8	メニューを読んで理解する	レストランや飲食店のメニューを読むために必要な言葉と注文をする際に必要な表現を学んだ。 【イベント】「あ」から始まる言葉ゲーム	-	-			
3	平成30年7月1日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	5	地震・台風について理解する	地震や台風など災害時の対策や避難方法に関する表現を学んだ。 【イベント】セタの短冊書き	-	-			
平成30年7月8日(日)~9月30日(日) 9:30-12:00 豪雨災害のため休講											
4	平成30年10月7日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	9	ゴミの出し方・公共マナーを理解する	ゴミの種類、分別・回収方法など、ごみ出しに必要な言葉・表現を、実物を使用しながら学んだ。 【イベント】被災アンケート	-	-			
5	平成30年10月14日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	6	道を探ねる・教える	道を探ねたり、道を教えたりするために、場所や道順を教える言葉や表現を学んだ。 【イベント】「い」から始まる言葉ゲーム	-	-			
6	平成30年10月21日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	6	病院探し・初診受付	病院を探して初診受付をする際に、情報を発信するために必要な言葉・表現を学び練習した。 【イベント】「お」から始まる言葉ゲーム	-	-			
7	平成30年10月28日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	10	書道を習う	日本文化の一つである書道について概略を学び、書道講師により実践的な指導を受けた。	-	-			

8	平成30年11月4日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	6	地震・台風について理解する(2)	注意報や警報など、災害時に必要な語彙や表現を学んだ。 【イベント】「白いもの」言葉ゲーム	-	-
9	平成30年11月11日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	5	交通ルール・交通マナー	日本の交通ルール・交通マナーに関する語彙・表現を学んだ。 【イベント】「か」から始まる言葉ゲーム	-	-
10	平成30年11月18日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市役所西庁舎	5	食文化を理解する	日本の料理、有名な食べ物について語彙・表現を学んだ。 【イベント】「き」から始まる言葉ゲーム	-	-
11	平成30年11月24日(土) 11:00~13:30	2.5	カミガツジプラザ	-	国際フェスタに参加する	カミガツジプラザで開催された「そうじやインターナショナルフェスタ」に参加した。	-	-
12	平成30年12月2日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	4	医者診察を受ける、病気への対処法・予防法	病院で診察を受ける際に必要な語彙・表現を学び、シミュレーションを行った。 【イベント】しりとり	-	-
13	平成30年12月9日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	3	公共交通機関を利用する	公共交通機関の種類や利用方法に必要な表現を学んだ。 【イベント】「さ」から始まる言葉ゲーム	-	-
14	平成30年12月16日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	7	買い物の仕方を学ぶ	日常生活の活動として頻度の高い「買い物」を取り上げ、買い物行為に必要な語彙・表現を学んだ。 【イベント】「し」から始まる言葉ゲーム	-	-
15	平成30年12月23日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	4	年賀状を書く	年末年始に使うきまり文句や表現を学び、日本の年末行事として年賀状を書く体験をした。 【イベント】年末茶話会	-	-
16	平成31年1月6日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	3	慶事の文化風習・マナー	日本の正月や縁起物など慶事に関する習慣(祝儀、食べ物など)や決まり文句について学んだ。 【イベント】獅子舞	-	-
17	平成31年1月13日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	5	日本の1年(年中行事)	日本の年中行事・イベントについて知り、文化を学んだ。 【イベント】「と」から始まる言葉ゲーム	-	-
18	平成31年1月20日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	6	交通事故・犯罪事件で、110番・119番に電話する	交通事故・犯罪事件で110番・119番に電話通報するために必要な表現を学び、実践練習をした。 【イベント】すごろく	-	-
19	平成31年1月27日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	5	職場でのあいさつ・ことばづかいを理解する	職場での丁寧な言葉づかいやあいさつ表現を学んだ。 【イベント】3文字言葉ゲーム	-	-
20	平成31年2月3日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	7	日本・岡山の観光	国内・岡山県内の観光地や四季のイベントなどについて知り、それらの情報を得るための表現を学んだ。 【イベント】節分の歌・豆まき	-	-
21	平成31年2月10日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	5	サイズ・色・素材を尋ねて購入する	服やズボンなどのサイズ・色・素材を尋ねて購入するのに必要な語彙・表現を学んだ。 【イベント】「は」から始まる言葉ゲーム	-	-
22	平成31年2月17日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	6	薬局を利用する。薬の説明を理解する	薬の種類、薬袋や処方箋に書かれてある語彙・表現を学び、必要な薬を買う練習をした。 【イベント】最終アンケート	-	-
23	平成31年3月3日(日) 9:30-12:00	2.5	総社市保健センター	8	引越しのあいさつをする	公共マナーと、引っ越しの際に使う決まり文句や引っ越しのあいさつ時に贈る物について学んだ。 【イベント】合同修了式	-	-

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第①回 平成30年6月10日】

総社市における多文化共生施策の概要

講師:岡山大学大学院社会文化科学研究科 准教授 中東 靖恵, 総社市市民生活部人権・まちづくり課 係長 河原 睦弘
総社市における多文化共生施策の取り組みや, 日本語教育事業について学び, 外国人支援に関する基本的な知識の習得を図った。

○取組事例②

【第1回 平成30年11月2日】

「やさしい日本語」研修

講師:公益財団法人ひろしま国際センター 日本語常勤講師 犬飼 康弘

対象者:市職員, 希望する市民

「やさしい日本語」の重要性などについて解説し, ワークショップを行いながら実践的に「やさしい日本語」の習得を図った。



(2) 目標の達成状況・成果

本市に暮らす住民を対象に, 外国人支援に関する基礎的知識を教授する「学習研修」と, 本市が開設する日本語教室に参加して実際に外国人住民と交流をしながら, 生活支援の一環として日本語学習をサポートする方法を実践的に学んでもらう「実践研修」の2つの研修を行った。毎回の授業終了時に行うミーティングでの指導者・日本語学習サポーター・コーディネーター・市職員との話し合い, 日本語学習サポーター育成研修受講者に対して最終アンケートを行った。アンケートでは「引き続きサポーターとして参加したい」、「地域コミュニティと外国人住民との交流をしたい」といったコメントが寄せられ, サポーターの外国人住民への多文化共生への意識向上が確認できた。

また, 公益財団法人ひろしま国際センター 日本語常勤講師 犬飼康弘氏を講師として迎え, 外国人住民と窓口対応をする市職員や希望する市民を対象に, 「やさしい日本語」研修を開催し, 「やさしい日本語」の重要性について理解を深めたり, ワークショップで実際に「やさしい日本語」に言い換えたりと, 実践的に学んだ。参加後のアンケートでは, 「やさしい日本語は難しい」「敬語を使うことが, 逆に外国人を混乱させていたことを知った」「やさしい日本語を意識していきたい」といった意見が多かった。

(3) 今後の改善点について

日本語学習サポーターという仕組みは本市教室のスタイルとして定着しつつある。一方で, 地域全体における日本語教育事業の認知度はまだそれほど高くなく, 日常生活における日本人住民と外国人住民との接触が非常に少なく, 外国人支援や多文化共生に対する意識もまだ低い。今後人材の確保・育成及び地域への広報活動を継続して行っていきたい。

＜取組3＞										
取組の名称	地域コミュニティ連携防災訓練事業 ※下記のように実施予定であったが、平成30年7月豪雨災害により、年度内の防災訓練は未実施									
取組の目標	地域に暮らす外国人住民に対し、地域コミュニティ、外国人防災リーダー、行政が連携し、地域住民を対象に行政が主催する防災訓練に参加する機会を外国人にも広く周知・提供し、外国人住民に必要な防災知識の習得と災害時に必要な日本語習得を促し、情報伝達ができないことによる災害時要支援外国人住民を減少させるとともに、防災訓練を通じて、日本人住民との「顔が見える関係づくり」と外国人支援意識の向上・啓発を図る。									
取組の内容	地域コミュニティと連携し、行政主催の防災訓練に外国人住民が参加し、災害時に使用する実用的な日本語を教授する。地域の防災訓練に外国人住民が参加することで、地域の一員として日本人住民と「顔が見える関係づくり」を行う。									
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	-								
取組による体制整備	未実施									
取組による日本語能力の向上	未実施									
参加対象者	地域に居住する日本人住民及び外国人住民					参加者数 (内 外国人数)		- 人(- 人)		
広報及び募集方法	未実施									
開催時間数	総時間 - 時間(空白地域-時間)				内訳 - 時間 × - 回					
主な連携・協働先	未実施									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人) ※該当する場合のみ	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
豪雨災害のため中止										

＜取組4＞										
取組の名称	地域ではぐむ子育て応援事業									
取組の目標	市内の保育・子育てNPO法人との連携により、子育て世代の外国人保護者と子供を対象に、同世代の親子が集まる交流の場に参加する機会を提供し、子育てサポーターから育児に関する基礎的知識を学びながら育児用語や学校用語など子育てに関する日本語の習得を目指すとともに、日本人保護者と子供等との交流の場を通じて、地域に暮らす住民として子育ての悩みを相談・共有することで、外国人保護者の子育てに対する不安を緩和・解消し、地域全体で子どもの健やかな成長を見守り、子育てを応援する。									
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> 本市を拠点に子育てサポートを行うNPO法人と連携し、従来日本人向けに行われている子育て支援事業に外国人親子が参加できる体制を整え、子育てサポーターから育児に関する基礎的知識や子育てに関する日本語を学び、親子で一緒に遊んだり、利用者同士で話をするなど楽しみながら日本語の習得を行う場を提供した。 「子育て」という共通のテーマを通じ、外国人保護者が日本人保護者との交流を深め、情報を得られる場として機能させ、外国人親子が地域社会の一員として積極的に社会参加できる環境整備を行った。 本事業を通じ、日本語学習に対する意欲・関心を高め、本市が開講する「地域でつながる日本語教室」への受講を促し、さらなる日本語能力の向上を図るような仕組み作りを行った。 本取組はH27年度から行っているが、事前準備や周知などの課題解決を図っているところである。H30年度においては、H29年度の実施結果から課題として挙げられた基本情報の周知や、情報の周知向上といった課題を克服し、より充実した取組みにするよう実施した。 									
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動	-								
取組による体制整備	総社市を拠点に活動する保育・子育てNPO法人と連携することにより、従来日本人向けに行われている子育て事業に外国人親子が参加できる体制を整え、子育てサポーターや日本人親子との交流を通じて、子育てに関する基礎的知識と子育てに関する日本語の習得する機会を提供するとともに、「子育て」を共通のテーマに外国人親子と日本人親子との交流と情報交換の場として機能させ、外国人親子が子育て世代のコミュニティに参加するきっかけとした。									
取組による日本語能力の向上	「子育て」という共通のテーマを通じ、外国人親子と日本人親子との交流の場、子育ての相談ができる場づくりを行い、子育てサポーターや日本人親子との交流を通じて育児用語や学校用語など子育てに関する実用的な日本語の習得を目指すとともに、本事業を通じ、日本語学習に対する関心を高め、本市が開講する「地域でつながる日本語教室」への受講を促すことで、さらなる日本語能力の向上も期待できる結果となった。									
参加対象者	地域に居住する外国人親子及び日本人親子	参加者数 (内 外国人数)			30人(30人)					
広報及び募集方法	総社市ホームページ、外国人住民向け広報紙、総社インターナショナルコミュニティ(旧団体名:総社ブラジリアンコミュニティ&インターナショナルフレンズ)ホームページ、Facebook、募集チラシの配布・送付(「やさしい日本語」をベースに、ポルトガル語、英語、中国語訳を付記)									
開催時間数	総時間5時間(空白地域-時間)	内訳 3時間 × 1回(チュッピーこどもまつり) 2時間 × 1回(インターナショナル子育て広場②)								
主な連携・協働先	NPO法人保育サポートあい・あい、NPO法人きよね夢てらす子育て応援っこ									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
※該当する場合のみ	11		2		2					15
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年9月27日(木) 10:30~12:00 インターナショナル子育て広場① : 豪雨災害のため中止									
2	平成30年11月18日(日) 10:00~13:00	3	総社市総合福祉センター	9	チュッピーこどもまつり	主に6歳までの子どもとその家族を対象としたブース型イベント。もちつき、手作りおもちゃコーナー、子ども防災教室など。	-	-		
3	平成30年12月4日(火) 14:30~16:30	2	天満屋ハッピータウンリブ総社店3階「なかよし広場」	26	インターナショナル子育て広場②	外国にルーツを持つ6歳までの子どもとその保護者と日本人親子が集まる「子育て広場」。自己紹介、触れ合い遊び、紙芝居などを使ってのふれあいなど。	-	譚 俊偉 赤澤 春香		
4	-	-	-	-	子育て応援 案内チラシ配布	総社市ファミリーサポートセンターの案内チラシを「やさしい日本語」で作成し配布。	-	-		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 平成30年11月18日】

「チュッピーこどもまつり」

連携先: NPO法人保育サポート あい・あい

やさしい日本語、ポルトガル語、中国語に翻訳したチラシを作成し、対象世帯(外国にルーツを持つ6歳までの子どもとその保護者)へ送付。

当日は、もちつきや、手作りおもちゃコーナーなど、様々なブースを自由に参加して回った。総参加者は約800人であり、その内、外国にルーツを持つ親子は9人参加しており、日本人参加者と一緒に楽しく交流していた。



○取組事例②

【第3回 平成30年12月4日】

「インターナショナル子育て広場②」

連携先: NPO法人きよね夢てらす 子育て応援こっこ

補助者: 総社市市民生活部人権・まちづくり課 譚 俊偉、赤澤 春香

やさしい日本語、ポルトガル語、中国語、英語に翻訳したチラシを作成し、対象世帯(外国にルーツを持つ6歳までの子どもとその保護者)へ送付。

当日は、自己紹介、触れ合い遊びなどで楽しく交流した後、フリートークの時間を設け、外国にルーツを持つ子どもの子育てで悩んでいること、予防接種の文化の違いなど、お互いに困っていることなどを共有する場となった。



(2) 目標の達成状況・成果

・外国人親子に対して「子育て」に関する情報を得られる場があるという生活情報を提供でき、外国人親子と日本人親子との交流促進・情報交換の場として機能させることができた。本事業の参加者は、【取組1】の日本語教室へ参加している方も積極的に参加するなど、一定の成果があった。また、やさしい日本語や多言語によるチラシ送付など、従来日本人向けに行われていた子育て支援事業に外国人親子が参加しやすい工夫をすることで、地域の日本人住民に対しても多文化共生・外国人支援意識の向上・啓発を促すことができた。

(3) 今後の改善点について

・当初予定していた開催数は実施できなかったが、本市で保育・子育てサポートを行うNPO法人との連携はスムーズで、「子育て」という共通のテーマを通じ、外国人親子が地域社会の一員として積極的に社会参加できる環境整備を行うための第一歩となった。今後もニーズを把握しながら改善を図ることで、外国人親子と日本人親子との交流の場、子育ての相談ができる場づくりを行い、子育てサポーターや日本人親子との交流を通じて育児用語や学校用語など子育てに関する日本語の習得を目指すとともに、本事業を通じ、日本語学習に対する関心を高め、本市が開講する「地域でつながる日本語教室」への受講を促していきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

地域に暮らす外国人住民が、日本人住民との交流を通して、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら、地域社会で暮らすために必要な生活情報・行政情報や、日本の文化・習慣に関する知識を得ることのできる場を設けるとともに、言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活を、同じ地域に暮らす隣人としてサポートする人材を育成することにより外国人支援体制の基盤を作り、外国人住民が自立し、地域社会の一員として積極的に社会参加できるよう地域全体が支える多文化共生のまちづくりを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

毎回の授業終了時に受講者が記入する「活動記録」およびミーティングでのコーディネーター・指導者・日本語学習サポーター・市職員との話し合い、日本語教室受講者に対して行った中間および最終アンケート調査の結果により、以下に挙げるような一定の成果を上げることができたことが確認された。

- ・【取組1】「地域でつながる日本語教室」においては、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語コミュニケーション能力の向上、地域社会で生活するために必要な行政・生活情報の提供、地域住民同士がつながる場の提供、地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り、という点において一定の成果が認められた。
- ・【取組2】「地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修」においては、外国人支援に関する基礎的知識の習得、外国人受講者の日本語学習をサポートする実践的な方法の習得、地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作りという点において一定の成果が認められた。外国人支援に関する基礎的知識の教授においては、岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授に、また、「やさしい日本語」研修においては、公益財団法人ひろしま国際センター日本語常勤講師に協力を仰いだ。
- ・【取組3】「地域コミュニティ連携防災訓練事業」においては、本年度は開催中止となったため未実施である。
- ・【取組4】「地域ではぐくむ子育て応援事業」においては、「子育て」に関する情報提供及び外国人親子と日本人親子との交流促進・情報交換の場の提供を行うことができ、従来日本人向けに行われている子育て支援事業に外国人親子が参加しやすい工夫をすることで、地域住民に対しても多文化共生・外国人支援意識の向上・啓発を促すことができた。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

・本事業すべての取り組みにおいては、コーディネーターである岡山大学大学院准教授が、事業主体である総社市との連携において総合統括・コーディネートをを行い、各取り組みにおいては、岡山県内の団体(徳真書道教室)との連携による生活情報の提供、総社市コミュニティ地域づくり協議会と総社市国際コミュニケーションとの連携による国際交流イベントの開催、総社市内保育・子育てNPO法人との連携による子育て応援事業の実施のほか、岡山県内および近隣地域の日本語教室・日本語教育専門家との情報交換・交流活動・相互連携等については以下の通りである。

- 日本語教室視察
 - ・香川大学大学院生:1名(平成30年7月1日)
 - ・岡山県国際課1名(平成30年10月28日)
 - ・岡山市内日本語教室担当者3名(平成30年12月9日)
 - ・北海道新聞記者1名(平成31年2月3日)
 - ・京都市役所1名、慶応義塾大学大学院生1名(平成31年3月3日)
- (公財)全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM)での講義(コーディネーターが講師を担当)
 - 平成30年度国際文化研修「第1回多文化共生の地域づくりコース」での講義(平成30年8月29日:担当科目「日本語教育」)
 - 平成30年度国際文化研修「第2回多文化共生の地域づくりコース」での講義(平成31年2月6日:担当科目「日本語教育」)
- 日本語教育学会平成30年度第3回支部集会【中国】でのパネルディスカッション(平成30年10月20日):(テーマ:地域に暮らす外国人の安心・安全を考える)コーディネーター、総社市市民生活部人権・まちづくり課国際・交流推進係長が登場
- 岡山県岡山市「やさしい日本語」講座講師(平成30年11月8日:コーディネーターが講師を担当)
- 佐賀県鳥栖市「やさしい日本語」職員研修講師(平成30年8月21日:コーディネーターが講師を担当)
- 大阪府堺市「やさしい日本語」職員研修講師(平成31年3月10日:コーディネーターが講師を担当)
- スリーエーネットワーク季刊誌「Ja-NET」87号へのコーディネーター寄稿(巻頭寄稿:日本語教室紹介)
- 機関誌「自治体国際化フォーラム」2019年5月号特集:ZOOM UP「外国人に対する日本語支援」へのコーディネーター執筆
- 外国人集住都市会議「おとお会議2018」への出席(平成31年1月29日)

(4) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・事業の周知・広報は総社市ホームページ、広報紙「そうじゃ」、外国人向け広報紙、総社市国際コミュニケーションホームページ、Facebook等で行った。募集チラシを、市役所及び公民館への設置や関係企業への配布に加え、市内の各スーパーマーケットにも募集チラシを置き周知を図った。

(5) 改善点、今後の課題について

・日本語教室に来ることのできない外国人への日本語学習支援:日本語教室の存在が地域社会に徐々に周知され始め、「地域住民同士がつながる場」として機能し始めたことは事業の大きな成果ではあるが、一方で、日本語教室に来たくても来られない外国人住民や、地域社会で暮らしていくうえで日本語教育が必要であると考えられるにも関わらず日本語学習をしない(できない)外国人住民がいる。この問題の解決に向け、今後も継続して考えていきたい。また、平成31年4月からの入管法改正が開始されることに伴い、より一層今後の外国人事情の動向も踏まえつつ事業の方向性を考えたい。

(6) その他参考資料

- ・平成30年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラム
- ・日本語教室受講者募集チラシ
- ・日本語学習サポーター育成研修受講者募集チラシ
- ・日本語教室受講者用最終アンケート結果
- ・日本語学習サポーター用最終アンケート結果
- ・日本語指導者用最終アンケート結果
- ・地域ではぐくむ子育て応援事業チラシ